

相馬野馬追 旧相馬中村藩5郷全ての『地元で』復活

浪江町の一部避難指示解除を受け/震災前の状況に近づく



【神旗争奪戦】打ち上げられた花火の中からゆっくり落ちてくる御神旗を騎馬武者たちが争奪する行事。雲雀ヶ原の祭場地に隣接する本陣山から陣煙が鳴り響くと、雲雀ヶ原一面に500余騎が広がり、花火1発ごとに2本の御神旗が舞い降りる。御神旗を勝ち取った騎馬武者は高々と御神旗を掲げ、羊腸の坂を本陣山(地図)山頂に向けて一気に駆け上がる。旗は敵の首になぞらえてあるため、御本陣では旗軍者に喜ばれる。その後、騎馬武者は妙見神社から御札と調書を受けて山を下りる。この一連の流れが間を置いて行われ、花火は計20発(御神旗が計40本)が打ち上げられる。なお、御神旗は、相馬中村神社が青、相馬太田神社が赤、相馬小高神社が黄色となっている。(wikipedia)

(2018.6.1 福島民友新聞みんゆうNetほか)
相双地方で7月28〜30日に繰り広げられる「相馬野馬追」で、東京電力福島第1原発事故後中止されていた浪江町での騎馬武者行列が8年ぶりに再開される。31日に同町で開かれた標葉(しねは)郷野馬追運営委員会が決まった。全5騎馬会の騎馬武者行列が地元で行われることになり、相双の夏の風物詩が震災前の状況に近づいた。



2011年は中止となった、相馬野馬追二日目に開催される「お行列」の様子。騎馬武者達が3ヶ口先の御本陣である雲雀ヶ原祭場地を目指し進軍する。(2017.3.10 LIFULL HOME'S PRESS 写真提供: 南相馬市役所)

野馬追は震災のあった2011(平成23)年に規模を縮小して開催。2012年からは震災前とほぼ同様の主要行事を3日間の日程で実施している。旧避難指示区域内では、2012年から南相馬市小高区の相馬小高神社で野馬懸(のまがけ)、昨年からは同市小高区で騎馬武者行列を再開していた。
標葉郷騎馬会は、浪江町が昨年3月末に一部地域を除き避難指示が解除されたことから同町での騎馬武者行列の再開を模索、自治体や商工会など関係機関との調整を進めてきた。
同町で再開するのは初日の出陣式と行列、2日目の本祭り終了後に帰還する「凱旋行列」、標葉郷騎馬会の騎馬武者たちによる「標葉郷神旗争奪戦」。震災前に比べ、行列の距離は数百メートルから1キロほど短くなる。参加する騎馬武者は、震災前年の2010年が約60騎だったが、今回は50騎程度が参加する見通し。
標葉郷騎馬会の林茂会長(73)は「多数の騎馬武者が浪江町から出陣したいとの意向があった。町民をはじめ多くの人に行列や神旗争奪戦を見てもらいたい」と話している。

旅して
めたいな
夏の東北!

we support!

RQ
災害教育センター

MONTHLY

復興支援『すけきた』改め
「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」

「すけきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

しんぶん

JUNE 11 2018

【復活へのみちのり】

現在の行政区域	旧郷名	所属神社	主な行事		
			宵祭り	本祭り	野馬懸
相馬市	宇多郷	相馬中村神社	総大将出陣式		
	鹿島区 北郷		総大将御迎		
南相馬市	原町区 中の郷	相馬太田神社	宵祭り競馬	お行列 甲冑競馬 神旗争奪戦	
	小高区 小高郷				野馬懸
双葉郡	浪江町	相馬小高神社			
	双葉町 標葉郷				
	大熊町				

- 2011年 『東日本大震災復興 相馬三社野馬追』として開催(小高郷、標葉郷は避難先からの参加)
『鎌ヶ谷市民まつり』に武者行列が参加(※すけきた98号)
- 2012年 前年は見送った本祭り、野馬懸を従来の会場で開催
- 2017年 相馬小高神社から騎馬が出陣、旧5郷全てが出陣(※すけきた96号)
- 2018年 旧標葉郡浪江町での行事(出陣式〜標葉郡神旗争奪戦)再開



御小人(おこびと)と呼ばれる人たちが福強い馬を選び総がかりで素手で捕らえ、第一番に捕らえられた馬が神社へ奉納される。この「上げ野馬の神事」による相馬地方の平和・繁栄の祈願を持って、野馬追は終了する。(2017.3.10 LIFULL HOME'S PRESS 写真提供: 南相馬市役所)

資料: 福島民友新聞、LIFULL HOME'S PRESS、wikipedia